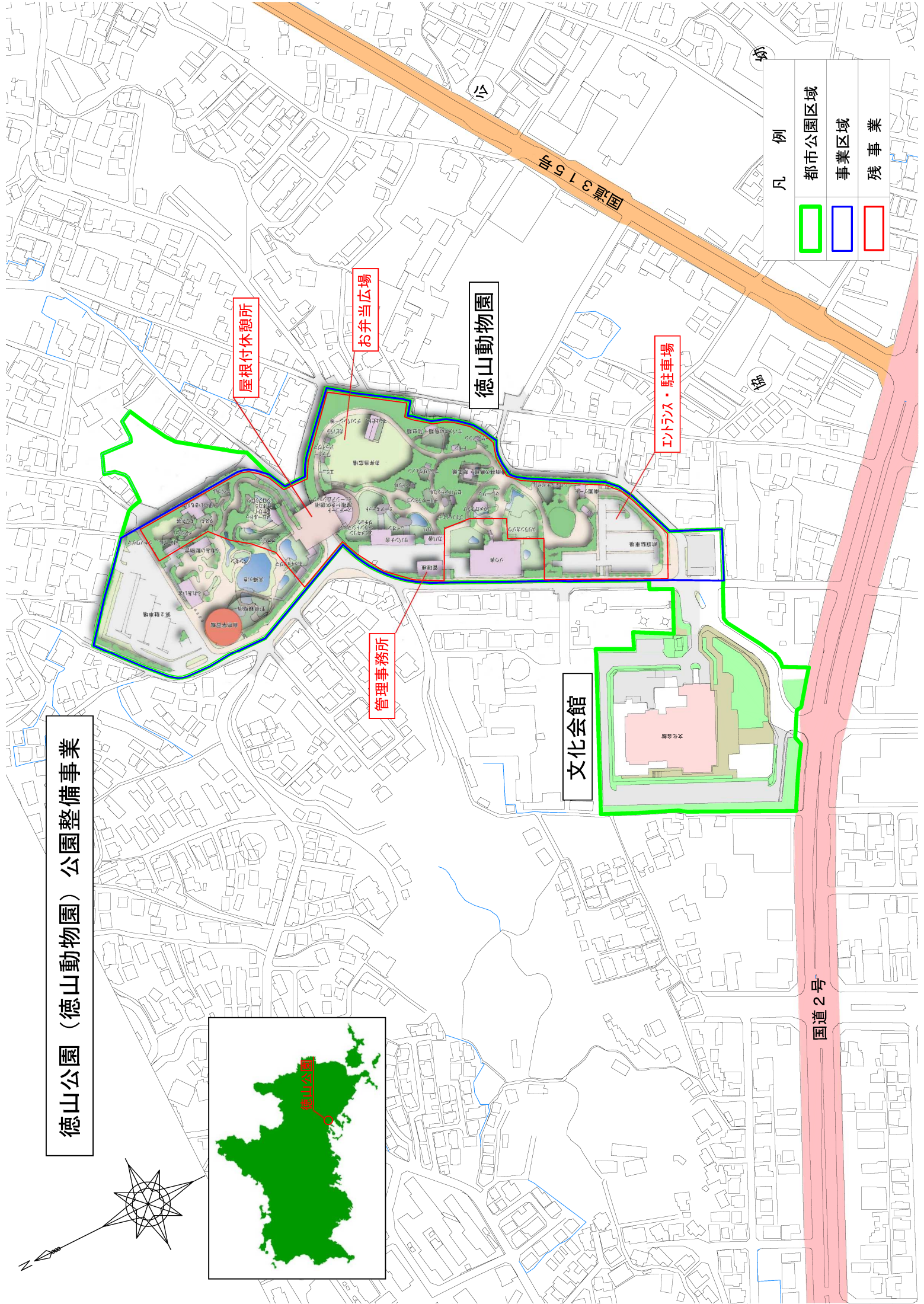
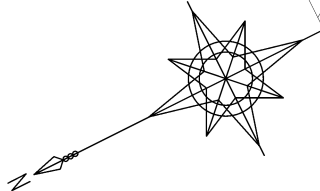
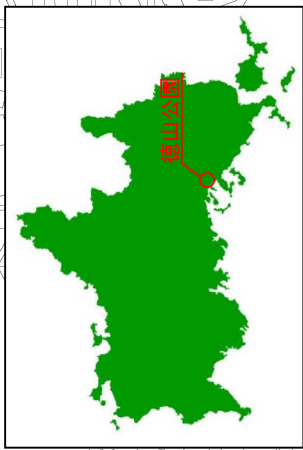


再 評 価 項 目 調 書

再評価実施要件		● 事業採択後 ( 10 年 ) ○ 再評価後 ( 年 ) ○ その他 ( )					
1 事業 概要	事業名	徳山公園（徳山動物園）公園整備事業					
	事業場所	周南市大字徳山5846番地					
	事業主体	周南市					
	事業期間	《 前回評価 平成 21 年 時 》 平成 20 年度 ~ 令和 9 年度 《 平成 32 年度 》 ( 西暦 2008 年度 ~ 西暦 2027 年度 《 西暦 2020 年度 》 )					
	総事業費 (内用地補償費)	≪ 5,400 百万円 》 5,400 百万円 ( 百万円 )	既投資額 (内用地補償費)	2,829 百万円 ( 百万円 )	進捗率	52 % ( % )	
	事業目的	当公園は、徳山駅から北へ2キロの本市中心部に位置した徳山動物園と文化会館を有する総合公園である。また、周南市都市計画マスタープラン及び緑の基本計画の中で、御幸通りから岐山通りに通じる都心軸の北の拠点として位置付けられており、観光・交流立市や環境立市を目指す本市の重要な役割を担っている。 現在、徳山動物園リニューアル基本計画に基づき、レクリエーションや防災機能の向上、緑を活かした美しい景観の形成や野生生物の生息・生育環境の確保を図りつつ、本市最大の観光施設として徳山動物園の全面的な整備を推進している。					
	事業内容	○都市公園面積8.1ha（内整備面積5.0ha【徳山動物園】） ○整備内容 動物展示施設、体験学習施設（自然学習館、野鳥観察所、ふれあい舎）、 管理事務所、駐車場、園路・広場、屋根付休憩所					
事業効果	○動物園の魅力向上による観光交流人口の拡大 徳山動物園は、JR徳山駅を起点とした都心軸の北の拠点に位置付けられ、年間29万人の安定的な利用がある本市最大の観光施設であり、開園58年の老朽化した施設を全面リニューアルし魅力化を図ることにより、中心市街地や本市全体の観光交流人口の拡大が期待できる。 ○学習効果の向上 動物とのふれあいや学習機能を高め、まちなか動物園として市民の学習効果が期待できる。 ○動物園としての機能（使命）の向上 ソウ舎の更新等、野生動物の繁殖、種の保全を図り世界的に求められる使命に貢献できる。						
2 再評価の視点	1 社会経済情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回評価（平成21年）から6年後に策定された第2次周南市まちづくり総合計画において、徳山動物園は「観光・コンベンション等による交流の推進」事業の施策の柱の1つとしてリニューアルによる観光や学習等の機能強化が位置付けられている。</li> <li>・2013（平成25）年以降のリニューアル工事期間中でも年間29万人の安定的な来園者数を維持しており、さらなる魅力向上が期待されている。</li> <li>・JR徳山駅から徳山動物園を結ぶ周遊バス運行を開始する等、中心市街地活性化や観光交流人口拡大の拠点としての取り組みが進んでいる。</li> </ul>				中項目評価	大項目評価
	関係市町及び地元の意向	徳山動物園には下記について求められている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとに優しい動物園（だれもが不自由なく楽しめる）</li> <li>・みんなが楽しい動物園（ふれあい、体験）</li> <li>・動物に優しい動物園（環境エンリッチ）</li> <li>・生涯学習の場として活用される動物園（学習できる場と機会の提供）</li> <li>・市民協働による企画と効果的な情報発信ができる動物園（市民参画）</li> </ul>				中項目評価	大項目評価

2 事業の投資効果	費用対効果分析等	(単位:百万円)				大項目評価 A ● B ● C		
		区分	主な項目	前回 (基準年: R0) 全体事業	今回(再評価・再々評価) (基準年: R1) 全体事業 残事業		備考	
		便益(B)	①直接利用価値	7,888	1,995	875		
			②間接利用価値(環境)	13,775	6,096	401		
			③間接利用価値(防災)	23,492	10,048	344		
			④その他の便益					
			総便益	45,155	18,139	1,620		
		費用(C)	①事業費	14,858	8,065	2,440		
			②維持管理費	6,907	2,096	1,488		
			③その他					
			総費用	21,765	10,161	3,928		
			費用便益比(B/C)	2.07	1.79	0.41		
		<small>※便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額。 ※「改正第4版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」(平成29年4月国土交通省都市・地域整備局)により算出</small>						
		<b>【費用対効果分析手法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回は徳山公園全体(8.1ha)で計測、今回は徳山動物園(5.0ha)で計測。</li> <li>・直接利用価値は、利用者が公園を利用するために支払う移動費用と利用料金により算出される価値である。</li> <li>・間接利用価値は、緑地と広場が存在することで、環境・防災面に役立つ価値であり、中心市街地で周辺世帯数が多いため高い便益額となっている。</li> </ul>						
2 再評価の視点	(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>平成25年度より北園の整備に着手し、これまでに体験学習施設である自然学習館やふれあい舎をはじめ、ペンギンプールや噴水広場、駐車場等を整備した。また、平成28年度より南園にも着手し、平成31年4月にソウ舎と屋外飼育場の一部をオープンしている。</p> <p>引き続き徳山動物園リニューアル基本計画に基づき、整備を推進し、令和9年度の完成を目指す。</p>				大項目評価 A ● B ● C	
		<b>【事業費の変化】</b> 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>  <b>【事業期間の変化】</b> <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>  スリランカゾウの導入に伴い、繁殖への対応を含めた整備を優先的に行う必要があり、平成27年度に施設規模や整備スケジュール等の見直しを行い、令和9年度まで事業期間の延伸をしている。						
4 コスト削減	代替案等の可能性	コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の獣舎や樹木等について評価を行い、既存ストックの活用を図っている。</li> <li>・良質な建設発生土等は現場で再利用、または他工事へ流用する等、資源リサイクルを行い建設費の削減を図っている。</li> </ul>				中項目評価 a b	大項目評価 A
		代替案	徳山動物園は本市都心軸の北の拠点として年間29万人の来園者のある本市最大の観光施設であり、開園58年が経過し老朽化した動物園のリニューアルによる魅力化は観光交流人口拡大の観点から必須であり、代替案の可能性はない。				中項目評価 a b	大項目評価 B ● C
3 環境	配慮事項	徳山公園はかつて徳山藩主毛利氏の屋敷があった場所であり、公園内には庭園の名残をとどめ、緑量のある樹木景観が形成されている。これらはまちなかの貴重な環境資源となっており、リニューアル事業においても、既存樹の活用を図ることとしている。						
4 対応方針	(事業実施主体案)	総合評価	● 継続      ○ 見直し継続      ○ 中止					
	評価理由	徳山動物園は本市都心軸の北の拠点として、観光・交流立市や環境立市を目指す本市の貴重な役割を担っている。こうしたことから、施設の老朽化が進む中で、まちなか動物園として、観光や学習等の動物園のもつ機能の強化を図るため、全面的なリニューアルを実施し、更なる魅力を創出する必要がある。						
	備考							

# 徳山公園（徳山動物園）公園整備事業



凡 例	
<span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	都市公園区域
<span style="border: 1px solid blue; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	事業区域
<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	残 事 業